



## 【神に祝福され、繁栄される名家への道】

申命記(Deuteronomy)6章1-12・8章1-11節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

### <1. 申命記とは>

ヨセフの時にエジプトに移住したイスラエルの民は430年間の奴隷生活を終え、神様の御救いの導きによって、出エジプトされ、荒野での最初の3ヶ月の旅を終えてシナイ山に着くこととなりますが、ここまでの内容が記されている聖書が「出エジプト記」です。そして、イスラエルの民がそのシナイの荒野で1年間滞在しているうちにモーセを通して下さる神様からの掟と律法の内容が記されている聖書が「レビ記」であります。その後、ふたたび約束の地にむかっての荒野での38年間の長い旅を終え、ようやくモアブの草原に着くまでの全旅程が記録された聖書が「民数記」であります。その後、イスラエルの民はそのモアブの草原で約2ヶ月間滞在されましたが、その時、神様がモーセを通して、モーセの最後の遺言的なメッセージをくださいましたが、その御言葉が今日「申命記」という聖書です。申命記を英語では「Deuteronomy」と言いますが、この意味は「第二の律法(the second law)」もしくは「繰り返される律法(repeated law)」という意味であります。つまり、申命記は「新しく与えられた律法ではなく、すでに与えられた神の律法に対する繰り返しの再確認と再び詳しく説明し、敷衍(ふえん)」されたため付けられた名前です。

神様はなぜモアブの平地で、再びすでに与えられていた律法を改めて説明するようにさせたのでしょうか。

ここには二つの理由がありました。①モアブに集まっている人々は出エジプトを知らず、荒野で生まれ育った新しい第二世代のイスラエルの民だったからでした。神様はなぜモアブの平地で、再びすでに与えられていた律法を改めて説明するようにさせたのでしょうか。

②信仰の民がカナン之地に入って住む時、その地の人々と区別された神様の民としてふさわしく生きるために律法を再び説明する必要があったからです。つまり、約束の地に入る前に、その地の異邦人たちの偶像崇拜と不道德から区別される生活をするために神様側から与えられた御言葉が申命記です。ですから、申命記はモーセがモアブの平地で神様の御言葉を語った最後の説教だとも言えます。

### <2. 申命記の構成と内容:神様がモーセを通して与えられた遺言的なメッセージ:後ろを！上を！前を眺めなさい>

申命記は34章で構成されている申命記は主に3パートで分けられています。

一番のパートは1-4章までですが、ここでは出エジプトしてから特に、カデシュ・バルネア～モアブの平地に至るまでの旅程を振り返った内容です。この申命記の初めの部分を「後ろを振り返ってみなさい！」という内容です。神様は40年の荒野での失敗と挫折をとおしてでも教えられるようにと願われたので、モーセをとおしてイスラエルの民が過去を振り返ってみなながら、過去の失敗と挫折さえも忘れないようにされたのです。

申命記の二番目のパートは5-27章までですが、ここでは上を見て神様を見上げるようにし、もう一度律法を教え、教訓される部分です。申命記5章は十戒から始まります。5章3節をみると「主はこの契約を私たちの先祖と結ばれたのではなく、今日ここに生きている私たち一人ひとりと、結ばれたのである。」

「主が、この契約を結ばれたのは、私たちの先祖たちではなく、今日、ここに生きている私たちひとりひとりと、結ばれたのである。」つまり、神様から与えられた十戒は、過去自分たちの先祖たちに与えられていた過去のものではなく、今、現在人事るイスラエルの民にまた与えられ適用されるものであることを確信させてくださっています。ですから申命記の二番目のパートは「神様の信仰の民として今も共におられ、見守る神のみを見上げなさい！」と教える内容です。

そして、申命記の三番目のパートは28章以後ですが、カナン之地に入ってからどう生きるべきであるかを語る‘前を、未来を見上げなさい！’内容が記録されています。この最後の部分ではイスラエルの民がカナン之地に入って住む時、神様の御言葉に絶対的に従って生きようと強調されています。ここでは「あなたがたは…してはならない」という言葉が何度も繰り返されています。つまり「新しい生活のためにしっかり整え、前を眺めなさい」という内容が中心的です。

申命記の構成をまとめてみると、神様はご自分の民に働きかけた40年間の旅程の中で恵みと失敗を覚えさせ、上からの神様のおきてをふたたび聞かされた後、まもなく入ろうとしているカナン之地に入ってからどう生きるべきなのかを教えてください申命記です。そういうわけで、申命記は「立ち止まって後ろを振り向いてみなさい」、「今も生きておられ、ともにおられる神を見上げなさい」そして「しっかり神の導きと約束を信じて、従いつつ、前

向きに進みなさい!”でまとめることができます。

<3. なぜ神様はモアブの平地で、再びすでに与えられていた律法を改めて説明するようにさせたのでしょうか。 >  
モアブに集まっている人々は新しい第二世代のイスラエルの民だったからでした。

<我らの家庭と子どもたちの世代に更なる神の祝福を受け継ぐために (イスラエルの1世代・2世代・3世代) >  
(第1世代：出エジプトされた自分たちで直接神様がなされた御業と御力を直接経験した世代。彼らはエジプトで神様が下した10回の災いを目撃し、救われた経験を通して、唯一の真の神様を経験した世代でした。神の御言葉と御約束通り信じて、家の門柱に子羊の血を塗った家々の全ての家庭の初の命は守られ、救われたことや葦の海を分かちさせ、直接自分の足で通られた世代でした。1世代は自分たちの目で、体で神を見て経験し信じた世代/しかしそれにも関わらず、過去のエジプトでの奴隷生活の癖や本姓を捨てられず、荒野では絶えず、渇きと飢えるたびに神につぶやき、神様を恨み続けました。‘エジプトにいれば良かったのに’結局彼らは神様を身で、体で何度も体験し続けても神の御言葉通り、御約束を信頼しなかった末、一世代目の中信仰の人だったヨシュアとカレブ以外は、だれも神の約束の地に入ることは赦されず、みんな40年間の荒野で死にました。/

しかし、その中で2世代目が生まれました！2世代目は1世代目から聞いた世代だと言えるでしょう。彼らはエジプトで救い出された神の御業を経験してなかった新しい世代でした。613の律法の項目などについて聞いたとしても、その律法を与えて下さった神様をよく知らず、その律法の意味と目的も親やだれからは聞いても、直接聞いたことがなかった世代でした。ですから、40年の荒野生活の終わりが間近にせまって来た神の約束の地の前のモアブの草原で、神は約束の地に入る前にこの2世代の人々にモーセを通してもう一度神の律法とともに、遺言的な3つのメッセージ (①神を信じ覚えなさい②神の御言葉に従いなさい③そうすれば、あなたとあなたの子孫が祝福される) を与えました。

その後、一世代のヨシュアとカレブと共に2世代目は、信仰によって進んだ時、葦の海が分かち渡ったようにヨルダン川の流れが止まり、約束の地カナンに歩き通って入ることが出来ました。カナンの地にはいって勝利を収め続け、分配された約束地カナンで定着することになりました。そして、それでもうずっと神の約束通り祝福され、幸せに暮らせたとなれば良かったのですが、ヨシュア記の次の士師記を読んで見ると、カナンの地で生まれた第3世代目についてとても悲しい内容が記されています。「その世代の者たちもみな、その先祖たちのもとに集められた。そして彼らの後に、主を知らず、主がイスラエルのために行われたわざも知らない、別の世代が起こった (士師記2章10節) カナンで生まれた第三世代は、まったく神を知らず、信じない、神様がなされたことも全然知らない別の世代だったのです。」士師記2章11-12節には、この第3世代について、こう書かれています。

「11するとイスラエルの子らは主の目の前に悪を行い、バアルに仕えた。12彼らは、エジプトの地から自分たちを導き出した父祖の神、主を捨てて、ほかの神々、すなわち彼らの回りにいるもろもろの民の神々に従い、それらを拝んで、主の怒りを引き起こした。」神を知らず、神がなされたことを経験したこともない世代！皆様のお子さんの世代はいかがでしょう。

みなさんの自分の世代に、熱心に神を信じたとしても当然、必ずし、子どもの世代に信仰が継承されると思ってはいけません！ (例え、暗い裁き士の時代であっても祈りのハンナによって生まれ、養われた素晴らしい信仰の指導者となったサムエルでしたが、彼の息子ヨエルとアビヤは、サムエルのように信仰の道に歩まず、利得を追い求め、わいろを受け取り、さばきをまげて、神の前で悪を行いました (第一サムエル記8章2-3節)。

素晴らしい信仰の王であったダビデ王の子どもたちはどうでしたか。

長男アムノン、妹タマルに性的な淫乱な罪を犯し、三男のアブサロムは、その兄アムノンを殺し (第二サムエル記13章)、反乱を起こし、父ダビデ王の王権を奪ったり、悲惨な罪をおかしました。敬虔なヒゼキヤ王はどうでしたか。神様が忌み嫌う偶像崇拜を捨てて、宗教改革を起こしながら、神が喜ばれることを行った彼が祈った時、太陽が止まったり、死の直前から15年も命が延長される神の恵みを頂きました。しかし、残念ながらその15年間延長されているうちに得られた彼の息子マナセは、12歳に王になって父ヒゼキヤ王が壊し捨てた偶像崇拜の場所を再建したり、様々な偶像の神々を拝み、神に厳しく裁かれてしまったこと (歴代誌第二33章) を我らは聖書を通して知っています。

そしたら、我らは、私の子どもの世代、また次にも神に祝福されていくために、どうすれば良いのでしょうか。

家庭こそ、神の信仰を伝授させ、継承させる場所であり、親がその責任者です！

神様はモーセを通して、そう実現できる具体的な実行原則まで教えて下さったのが、シエマと呼ばれる今日の本文6章6節-9節の内容です。

ここでは大事な3つの柱があります。英語3つのEでまとめられます。

**①まず親の心にしっかり刻みなさい(Engrave)！ (6節)**

「私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。」

この神の命令について勘違いしてはいけないことは、この御言葉は、まず、親の世代に下さった御言葉であることです。4節に神の人モーセは「聞け、イスラエルよ。」叫びました！

本文2節によれば、今モーセの前で少なくとも3世代「それは、あなたの一生の間、あなたも、そしてあなたの子も、孫も」が集まっていました。あなた(ヨシュア世代)、あなたの息子、あなたの孫たちが集まっていました。しかし、ここで「イスラエルよ」は単数で呼ばれ、また5節～8節までもすべて2人称(にんしょう)複数(あなたたち)ではなく、**2人称単数代名詞「あなた」**で使われています。この意味は、前の前にいるすべての世代が聞く前に、まず、この御言葉を受け取る、従うべき「**ヨシュア、あるいは、ヨシュアの世代(親世代)の一人一人**」に命じられている内容であり、**親の世代がまず、この御言葉を自分のものとして受け止め、心に刻んでおかなければならない**ことを意味しているのです。

神は、家庭の中で子どもたちに教え込む前に、まず、親の心にしっかり刻んで常に覚え、従って行わないのに、子どもたちの心に刻まれることになることを期待するのは愚かであることを教えて下さっています。

### **②親が絶えず子どもたちに教え込みなさい(Empowerment)!(7節)**

神は、親がまず、この神の御言葉を心に刻み、その後、親は神の御言葉を子どもたちに教え込むように命じられています。彼らは、荒野での40年を経て、今いよいよ神が約束されたカナンの地を目の前にしている状況です!

神は、モーセを通して、神の民が約束の地に入り、色々な国々の中天の星のように輝き、神様との親密な関係を保ち、大いに祝福される国となることを望んでおられました。そうなるために、神はどんなお方であり、何をなさったお方であるか、またその神を信じる民としてどう生きるべきかについて記録し、覚え、従って行い続けるようにモーセを通して命じられました!ところが、その重大な信仰の役割と責任を、モーセやヨシュアでもなく、最高のラピでもなく、親世代の各家庭の親たちに委ねられています。

神はこう命じられました!7節に、親に直接「あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。」

これがまさに「**エンパワーメント(Empowerment)：願うことを行ったり、起こっていることをうまくやり遂げるように自由と力付ける一連の過程**」です。

つまり、どんなことが起こっても、それに十分に対応し、遂行できるように力と意志を提供することを意味します。日々、生活とおかれた状況の中で、神と神の恵みを子どもたちに分かち合い、祈り合いながら、神の力のエンパワーメントを求めて生きるように親にその偉大な責任を与えて下さっているのです。

### **③親が環境を整えなさい(Environment)!(8-9節)**

「**8これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい9これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい。**」今も伝統派ユダヤ人たちは、この聖書箇所文字通り守っています。

彼らは、祈る時、トラの聖書箇所が書かれている小さな革袋を額に結び付け、腕にも巻くことをテフィリン(tefillin)だと言います。また、ヘブル語で「門柱(もんちゅう)」を意味する「メズーザー(meuzah)」という申命記6章4-9節と11章13-21節の御言葉が細かく書かれているのが入った箱を門の右側に張って置き、出入りしながら、触るようにしています。

モーセはとうして、当時、イスラエルの民にこのようにすることを要求したのでしょうか。

手首、額、門柱は、家族の視線が一番多く届くところであり、毎日見ないでは通り過ぎないところだったからでした。シエマの神の御言葉を記録し、覚えられるようにするためでした。

今日、テフィリンやメズーザーじゃなくても、神の御言葉を記録し、記念し、覚えられるような環境を整えることによって、神を忘れないように、神の御言葉の約束を信じ、守り行うことが出来るように親は家庭の中で環境を作らなければなりません。

アメリカD6(ALL in D6)では、1/168を主張します。子どもたちに教会が与えられる影響力は、家庭が与えられる影響力の168分の1しかない。その影響力の基準は時間です。40対3000という主張もあります。一年間8760時間の中親が子どもたちとともにする時間が大体3000時間に、教会学校では週日曜日1時間なので、約40時間しかないということです。この統計の意味は、決して教会や教会学校がいないという意味ではなく、教会は教会の大事な役割と責任が、家庭は家庭での大事な役割と責任があるという意味です。そして、神が家族の親に信仰の継承と伝授(でんじゅ)のための一番の責任者として読んで下さり、家庭こそ、信仰の伝授と継承が実現できる場所であることを表し、教えています。

創世記で、エデンの園に罪が入ってまず、壊した関係が神様との関係(創世記3章8節)であり、その次が家庭の中で夫婦関係(創世記3章12節)でした。また家庭の中に兄カインが弟アベルを殺害することも続き、信仰の養育の一番場所である家庭の責任と機能が失われるようにサタンは人の家庭に攻撃しました。

今日サタンは信仰の継承と神の祝福の源である家庭を絶えず打ち壊そうとしています。信仰の一番中心地である家庭の中で、夫や妻の関係が背けるように、親子が顔と顔を合わせる暇すらないように、忙しすぎるようにさせます。

<4.今日の本文の内容を通して教えられる申命記全体のメッセージ>

<(1) いつも神を忘れず、覚える為に>

今日の本文である申命記8章はモーセがイスラエルの民に説教した二番目のパートでもありますが、申命記全体のメッセージが含まれています。何度も申し上げていますが、エジプトからカナンまでの直線距離だと2週間で入れる距離でした。1ヶ月あれば十分入れる距離です。それなのにもかかわらず1年でもなく、10年でもなく、40年の長い年月がかかったというのはこの40年の期間がけっして偶然や失敗ではなくなにかを教えようとする神様の意図があることが分かります。イスラエルの民には訓練が必要だったため40年間荒野を通らせたのです。いままでの40年がどんな意味があったのかを説明しているところが今日の本文の内容です。

一つは“覚えなさい”という命令です(申命記8:2) 申命記で特によく出てくる言葉がこの覚えなさいです。

申命記5章では十戒を言っている中5章15節で「あなたは自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、主が力強い御手と伸べられた御腕とをもって、あなたをそこから導き出したことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、主は、安息日を守るよう、あなたに命じたのである」  
実に、神、ご自身が祝福の源であり、約束の地であるため、どんな時でも神を覚えるように強調されているのです。いったいなぜ神様は40年を覚えなければならぬとおっしゃったのでしょうか。

二つの理由は、救いの神を、つまり、救いの始まりとその旅程の完成は神様の御手にあり、御力の御業によるのを忘れないようにさせるためです。旧約特に創世記から申命記までは救いの神様が表されていますが、40年間を覚えなければならぬ大切な理由はこの救いの神様を忘れないで、信じるようにさせるためでした。神様はイスラエルの民がカナンの地に入って住む時“過越の祭り”を守るようにと命じられました(出12章)。これもエジプトから奴隷だったイスラエルの民を救ってくださった神様を覚えさせるためでした。エジプトで10回目の災いであった長男たちの死を通してイスラエルの民を救い出されるとき、イスラエルの民の家の門柱(もんちゅう)に羊の血をつけるように命じられました。その血によってイスラエルの民の長男たちは死なずに、その災いは過ぎ越されました。その日を記念する日が過ぎ越しの祭りでした。つまり、過ぎ越しの祭りは、神様がご自分の民をどのように救い出してくださったのかを覚えさせる祭りです。ですから、この過ぎ越しの日を覚えさせるのは単純にイスラエルの祭りを守らせるためではなく、神様の救いの御業を覚え、忘れないようにとされる福音の内容なのです。

イエス様も聖餐をとおして“わたしを覚えなさい”(第一コリント11:24;in remembrance of me)と言われたので、こんにちも聖餐式を守っています。聖餐式もキリストの死と復活、イエス・キリストによる救いを覚えさせるためです。こんにちの説教も、CSの教育も結局救ってくださる神様を忘れないようにとする教えではないでしょうか!我々が信じる神様は荒野のような人生の旅路においてもかならず救いの御業を成し遂げてくださる方である事を覚えましょう。

三番目にイスラエルの民に過去40年を覚えなさいと命じられたもう一つの理由は、神様の恵みと哀れみ深い導きにもかわらず、繰り返される人の不信仰と不従順の罪深さを悟らせ、神の御前で謙遜になり、神を絶対信じ、従う事を決断させるためでした。たしかに40年の彷徨(ほうこう)の日々は不従順と不信の連続で、不信仰だった彼らは荒野でみな死にました。彼らが荒野で死んだのは病でもなく、年齢でもありませんでした。最後まで神様を信じられなかった彼らの不信仰がその運命を決めたのです。ですから、荒野の40年を覚えなさいという御言葉は最後まで神様を信じ切れなかった不信仰と不従順を悟らせるためでした。神様がイスラエルの民に覚えなさいと命じられたのは神様の救いの御業を忘れないようにするためであり、人間の不信仰と不従順にもかかわらず最後まで信じる信仰の民を約束の地に導いてくださる神様の救いを覚えさせるためでした。イスラエルの民がカナンの地に入ってもその救いの神様を忘れないで目に見える偶像を拝まないようにと覚えさせるためでした。

## <(2)荒野の時は、神様への絶対信仰と絶対従順の訓練>

今日の本文8章では、大事に教えられているもう一つは、今までの荒野での40年間は決して無駄な荒野での生活ではなく、あなた方の為の徹底的な訓練の期間であった事です。

「8:5あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを、知らなければならない。」  
“あなたがたの主がこの40年間荒野の道を歩かせた事を覚えなさい。”確かに、この40年は失敗と挫折の日々でしたが、決して無駄ではなかった事です。荒野の40年を覚えなさいと言われた後、本文8章2節には「あなたの神、主がこの40年の間、荒野であなただを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるもの知るためであった」と言われました。30章2節にも「あなたの神、主に立ち返り、きょう、私あなたがたに命じるとおりにあなとも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら、」

イスラエルの民は、たった2週間あれば入れる所を40年の間荒野を歩かせられたのには大切な理由があります。言い

換えると荒野での40年はどんな意味があったのかを語られているこの本文の強調点だと思います。それは神様からの訓練の旅だったと言っています。するとどんな訓練を神様は徹底的にさせたのでしょうか？もう一度2節を読んでみましょう。

“それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。”つまり、どんな時にも神様への絶対信頼と絶対従順への訓練をさせたのです。神様は時にはイスラエルの民を低くさせ、試練を与えたりすることによって、神様の命令を守り、徹底的に従わせる訓練をさせてくださったのです。

人間は機会さえあれば、高くなろうとする欲望があります。これは墮落した人間の共通の欲望です。

人間は物事がうまくいくと自分がえらいからうまくできたと思い込みます。人間には高慢になろうとする本能的罪の欲望があります。人が高慢になると、その時から神の御言葉を心から聞こうとも、従おうとしません。このような神様の御民を神様の御前で低くさせ、ちゃんと従える訓練を続けてしてくださいました。

愛する信仰の家族のみなさん、一度考えてみてください!!もしイスラエルの民が容易くカナンの地に入り、簡単にお金を手に入れたなら、まるで自分の力と自分の能力で得たかのように当然高慢になりがちです。これを8章17節で指摘しています。

「あなたは心のうちで、「私の力、私の手の力が、この富を築き上げたのだ」と言わないように気をつけなさい。」

試練と失敗がないなら、自分たちの力と手の力でエジプトを出て、自分たちが勝ち取って、ついに約束の地に入れたのだと高慢になりやすいので、神様は挫折と彷徨と試練の期間をとおして低くさせ、謙遜に徹底的に従える訓練をされたのです。

愛するクリスチャンプレイズちやちの家族のみなさん！我々の人生の旅程においても時には痛みもあり、苦難も、失敗もあり、誰もが知らない悲しみをいただいたまま苦しい日々を送る時もあります。しかし、その時であっても我々の全てを治め、導いて下さっている神様の御手が共にある事を忘れてはいけません。この世の目に見えるものに頼らず、ただ、謙遜になって神様のみを見上げ、徹底的に信じ、従い通させる訓練でもあります。いつも試練の中でも謙遜にならしめてくださる神様の御手が共にあります。結局それがさらに神に祝福される唯一な道だからです。神様は失敗と挫折の40年間を覚えさせる事によって不従順とつぶやきの日々を思い出させ、カナンの地に入っては徹底的に神の御言葉に従う事によりさらに祝福される事を神様は約束して下さっています。

「私が、きょう、あなたに命じるすべての命令をあなたがたは守り行なわなければならない。そうすれば、あなたがたは生き、その数はふえ、主があなたがたの先祖たちに誓われた地を所有することができる。(8章1節)」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！みなさんは荒野のようなこの人生の旅程の中、徹底的に神とその御言葉によく聞き従っていますか。第一サムエル記15章22節で「サムエルは言った。「主は、全焼の物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊のお脂肪にまさる。」

<(3)神様が祝福される真の信仰の生き方を分かって変えられるため>

今日の本文で三つ目の教訓は40年間の荒野での旅程の訓練を通して神はイスラエルの民に分からせるためであると教えて下さっています。

3節をご覧ください。「それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。」

荒野での日々を通して神様は一つ確かな事実を教えようとされました。それは人が肉のパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての御言葉によって生きる事でした。肉はパンのような食べ物で肥えさせ、丈夫にさせるでしょう。しかし、人は肉だけ持っている者ではなく、心と魂も共にあります。特にこのたましいを肥えさせ、丈夫にさせる方法は神からの御言葉を聞く事が魂を食べさせ、肥えさせる霊の糧である事を教えて下さっているのです。イスラエルの民は荒野を通る時に耕したり、農業の働きなど生きるにしても、食べるにしても実際自分たちの力でできることは何一つありませんでした。なのにも関わらず、どうやって砂漠の中でも生きる事ができたのでしょうか。それは神がイスラエルの民も、先祖たちも想像もつかなかったマナとうずらで毎日彼らをやしなってくれたからです。神の御言葉に聞き従って行っていれば、守られ、満たされ、強く、祝福されて生きるように神様はその道を導き、与えて下さいます。

4節をみてください。「この40年間の間、あなたの衣服はすり切れず、あなたの足は、腫れなかった。」

40年の間、イスラエルの民が耕しましたか？野菜や果物を栽培しましたか？衣服を作りましたか？靴を作りましたか？

か？実際、彼らは何もしませんでした。ただ神の御言葉と命令に従っただけではないでしょうか。ところが、それによって彼らを生かされ、具体的に必要な彼らの着物はすり切れず、砂漠の熱い道を歩きながらも、足ははれないように守られました。つまり、神様は信じ、その御言葉に従う者には必要なすべてを与えてくださいました。荒野の訓練を通してとおして人間はパンだけではなく、神様の口から出るすべての御言葉によって生きる真の行き方とその道を教えてくださったわけです。この御言葉は**マタイの福音書4章4節**でイエス様が引用された箇所でもありません。

神様は荒野の40年間を通して大事な真理を教えようとされました。それは神様とその御言葉を絶対的に信じて、従い通せば、神様がすべてを解決してくださるという事です。そういうわけで申命記28章以下では従う人への祝福を言い聞かせています。申命記がなぜこんなに御言葉に聞き従う事を強調していたのかいまはよく理解できないかもしれません。しかし、これから続けて学ぶヨシュア記、士師記、サムエル第一、第二を通して、神様がなぜこんなに強調されたのかがすごく理解できるようになると信じます。

失敗と挫折の40年、忘れてしまいたくなるその失敗の40年間をとおしてでも神様はご自分の民を訓練されていました。信仰によって従う訓練をされてきたのです。**民数記で“神に対する絶対信仰”**が強調されたなら、**申命記では“神の御言葉に絶対従順”**が強調されています。いまの我々はどうでしょうか？

我々ももう一度最近の自分の信仰、御言葉に徹底的に従って来ているのか振り返って見ましょう。そして、今日もう一度改めて目を上げて、心を上に、神を見上げましょう。そして、改めて絶対信仰、主の御言葉に対する絶対従順を決断し、前向きに進みましょう。

今年最後まで、人生の最後まで、今も生きてともにおられ、我らの人生を導かれる神様への絶対信頼と信仰を今日新たに保って歩みましょう。最後まで主の御言葉に立ち返り、徹底的に御言葉の通りに従い通す絶対従順によって神様がご自分の民のため約束され、備えて下さって天の豊かな祝福と恵みを親たちのみなさんとまた、親のみなさんを通してさらにお子さんたちにまで豊かに注がれ、代々に神に祝福される信仰の名家としてたてられていく全クリスチャンプレイズチャーチの家庭と家族となりますようにお祈り申し上げます！アーメン！

